



Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection

Release 2.x
Published May 30, 2007

Text Part Number: OL-13893-01-J

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0705R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection
Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.



CONTENTS

	このマニュアルについて	vii
	目的	vii
	対象読者	viii
	関連マニュアル	viii
	表記法	ix
	技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン	x
	シスコ製品のセキュリティの概要	x
<hr/> CHAPTER 1	Cisco Unified Serviceability について	1-1
	Cisco Unified Serviceability の概要	1-2
	レポートおよびモニタリング ツール	1-3
	ブラウザのサポート	1-3
	関連情報の参照先	1-3
<hr/> CHAPTER 2	Cisco Unified Serviceability の使用方法	2-1
	Cisco Unified Serviceability へのアクセス	2-2
	Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (HTTPS) の使用方法	2-3
	Internet Explorer における HTTPS の概要	2-3
	Internet Explorer を使用した、信頼されるフォルダへの証明書の保存	2-4
	Netscape を使用した、信頼されるフォルダへの証明書の保存	2-5
	Cisco Unified Serviceability インターフェイスの使用法	2-6
	アクセシビリティ機能の使用法	2-7
	関連情報の参照先	2-7
	関連項目	2-8
<hr/> CHAPTER 3	アラームについて	3-1
	アラームについて	3-1
	アラーム設定	3-2
	アラーム定義	3-2
	アラーム情報の表示	3-3
	アラーム設定のチェックリスト	3-3
	関連情報の参照先	3-4

CHAPTER 4

アラームの設定	4-1
サービスに関するアラームの設定	4-2
アラーム設定でのサービス グループ	4-3
アラームの設定	4-4
関連項目	4-5

CHAPTER 5

アラーム定義の表示および更新	5-1
アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加	5-2
システム アラーム カタログの説明	5-3
関連項目	5-4

CHAPTER 6

トレースについて	6-1
トレースについて	6-2
トレースの設定	6-2
トラブルシューティング トレースの設定値	6-3
トレース収集	6-3
トレース設定および収集のチェックリスト	6-4
関連情報の参照先	6-5

CHAPTER 7

トレースの設定	7-1
トレース パラメータの設定	7-2
トレース設定でのサービス グループ	7-4
デバッグ トレース レベルの設定	7-6
トレース フィールドの説明	7-7
Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールド	7-7
Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド	7-7
トレース出力設定の説明およびデフォルト	7-8
関連項目	7-9

CHAPTER 8

トラブルシューティング トレースの設定	8-1
関連項目	8-2

CHAPTER 9

サービスについて	9-1
機能サービス	9-2
データベースおよび管理のサービス	9-2
パフォーマンスおよびモニタリングのサービス	9-2
ネットワーク サービス	9-3
パフォーマンスおよびモニタリングのサービス	9-3
バックアップおよび復元のサービス	9-4

システム サービス	9-4
プラットフォーム サービス	9-5
DB サービス	9-6
SOAP サービス	9-6
サービスのアクティブ化	9-7
Control Center	9-7
サービス設定のチェックリスト	9-7
関連情報の参照先	9-8

CHAPTER 10

Serviceability Reports Archive について	10-1
Serviceability Reporter のサービス パラメータ	10-2
Server Statistics Report	10-2
Alert Summary Report	10-3
Serviceability Reports Archive 設定のチェックリスト	10-4
関連情報の参照先	10-4

CHAPTER 11

サービスの設定	11-1
機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化	11-2
Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびステータスの更新	11-3
コマンドライン インターフェイスを使用した、サービスの起動および停止	11-4
関連項目	11-4

CHAPTER 12

Serviceability Reports Archive の設定	12-1
関連項目	12-2

INDEX

索引



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。

次の項で構成されています。

- [目的 \(P.vii\)](#)
- [対象読者 \(P.viii\)](#)
- [関連マニュアル \(P.viii\)](#)
- [表記法 \(P.ix\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.x\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.x\)](#)

目的

『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』では、Cisco Unified Serviceability を介したアラーム、トレース、SNMP などの設定について説明し、設定手順を示します。このマニュアルは、次に示すマニュアルと一緒に使用してください。

- 『Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection』: システムのさまざまな部分 (重要なサービス、アラート、パフォーマンス カウンタなど) をモニタするためのツールである RTMT の使用方法について説明しています。
- 『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』: Cisco Unity Connection Serviceability を介したアラーム、トレース、レポートなどの使用について説明し、その手順を示しています。



ヒント

Cisco Unity Connection の場合、サービスアビリティ関連のタスクを Cisco Unified Serviceability および Cisco Unity Connection Serviceability の両方で実行する必要があります。たとえば、問題をトラブルシューティングするには、両アプリケーションでサービスの起動と停止、アラームの表示、およびトレースの設定を行うことが必要な場合があります。

Cisco Unified Serviceability は、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』で説明する機能をサポートしています。Cisco Unity Connection Serviceability 固有のタスクについては、『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

対象読者

『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unity Connection の設定、トラブルシューティング、サポートを担当する管理者を対象にしています。IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。

関連マニュアル

Cisco Unity Connection に関するその他のマニュアルについては、『*Documentation Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。このマニュアルには次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_documentation_roadmaps_list.html

表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。

**注意**

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。

**警告**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここには、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。



CHAPTER

1

Cisco Unified Serviceability について

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified Serviceability の概要 \(P.1-2\)](#)
- [レポートおよびモニタリング ツール \(P.1-3\)](#)
- [ブラウザのサポート \(P.1-3\)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.1-3\)](#)

Cisco Unified Serviceability の概要

Cisco Unified Serviceability は、Cisco Unity Connection の Web ベースのトラブルシューティング ツールです。次の機能を提供します。

- トラブルシューティングのためにアラームとイベントを保存し、アラーム メッセージ定義を提供します。
- トラブルシューティングのために、各種ログ ファイルにトレース情報を保存します。
- Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、コンポーネントのリアルタイム動作をモニタします。
- [Service Activation] ウィンドウを使用してアクティブ化、非アクティブ化、および表示できる機能サービスを提供します。
- 機能サービスおよびネットワーク サービスを起動および停止するためのインターフェイスを提供します。
- 日次レポート (アラート要約やサーバ統計レポートなど) を生成およびアーカイブします。
- サーバ上のログパーティションのディスク使用量をモニタします。
- システム内のスレッド数およびプロセス数をモニタします。パフォーマンスを向上させるためにキャッシュを使用します。



ヒント

Cisco RIS Data Collector により、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool に、プロセスおよびスレッド統計カウンタが提供されます。Cisco RIS Data Collector によってこの関連カウンタが提供されるよう、許容されるスレッドおよびプロセスの最大数を設定するには、Cisco Unity Connection の管理で Cisco RIS Data Collector サービスの Maximum Number of Threads and Process サービス パラメータにアクセスします。サービス パラメータの設定の詳細については、『Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド』を参照してください。



ヒント

Cisco Unity Connection の場合、サービスアビリティ関連のタスクを Cisco Unified Serviceability および Cisco Unity Connection Serviceability の両方で実行する必要があります。たとえば、問題をトラブルシューティングするには、両アプリケーションでサービスの起動と停止、アラームの表示、およびトレースの設定を行うことが必要な場合があります。

Cisco Unified Serviceability は、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド』で説明する機能をサポートしています。Cisco Unity Connection Serviceability 固有のタスクについては、『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

レポートおよびモニタリング ツール

Cisco Unified Serviceability には、次のレポート ツールがあります。

- Real-Time Monitoring Tool (RTMT): RTMT を使用してコンポーネントのリアルタイム動作をモニタし、Serviceability Reports Archive でアクセスできる日次レポートを作成します。詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- Serviceability Reports Archive: Cisco Serviceability Reporter サービスで生成されたレポートをアーカイブします。

ブラウザのサポート

Cisco Unified Serviceability では、次のブラウザがサポートされます。

- Internet Explorer 6.0
- Netscape 7.1

Cisco Unified Serviceability にアクセスするには、サポートされるブラウザを実行しているマシンからアプリケーションを参照する必要があります。

Cisco Unified Serviceability は、HTTPS を使用してセキュリティ保護された接続を確立します。



ヒント

Cisco Unified Serviceability は、ブラウザ内のボタンはサポートしません。設定タスクを実行するときは、[戻る] ボタンなど、ブラウザのボタンは使用しないでください。

関連情報の参照先

その他のシスコ マニュアル

- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*
- *Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーションガイド*
- *Cisco Unity Connection システム アドミニストレーションガイド*



Cisco Unified Serviceability の使用方法

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified Serviceability へのアクセス \(P.2-2\)](#)
- [Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer \(HTTPS\) の使用方法 \(P.2-3\)](#)
- [Cisco Unified Serviceability インターフェイスの使用方法 \(P.2-6\)](#)
- [アクセシビリティ機能の使用方法 \(P.2-7\)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.2-7\)](#)

Cisco Unified Serviceability へのアクセス



ヒント

Cisco Unified Serviceability にログインすると、[Navigation] ドロップダウン リスト ボックスに表示されるすべてのアプリケーションにアクセスできます。各アプリケーションへのログインは不要です。ただし、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理ページまたは Disaster Recovery System は例外です。Cisco Unified オペレーティングシステムの管理ページまたは Disaster Recovery System の GUI には、Cisco Unified Serviceability へのアクセスに使用するのと同じユーザ名およびパスワードではアクセスできません。Cisco Unified Serviceability からこれらのアプリケーションにアクセスするには、[Cisco Unified Serviceability] ウィンドウの右上にある [Logout] リンクをクリックしてから、[Navigation] ドロップダウン リスト ボックス内のアプリケーションを選択して、[Go] をクリックする必要があります。

[Navigation] ドロップダウン リスト ボックスに表示されるいずれかのアプリケーション（Cisco Unified オペレーティングシステムの管理ページまたは Disaster Recovery System 以外）にログイン済みの場合は、ログインなしで Cisco Unified Serviceability にアクセスできます。[Navigation] ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Serviceability を選択して [Go] をクリックします。

Cisco Unified Serviceability にアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Netscape 7.1 または Internet Explorer 6.0 を使用して、Cisco CallManager Serviceability サービスが動作するサーバをブラウズします。



ヒント

サポートされるブラウザで、`https://<server name or IP address>:8443/ccmservice/` と入力します。ここで、server name or IP address は、Cisco CallManager Serviceability サービスが動作するサーバで、8443 は HTTPS のポート番号です。

ブラウザに `http://<server name or IP address>:8080` と入力すると、HTTPS を使用するようにリダイレクトされます。HTTP は、ポート番号 8080 を使用します。

- ステップ 2** 証明書の入力を求められた場合は、[P.2-3 の「Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer \(HTTPS\) の使用方法」](#)を参照してください。

- ステップ 3** インストール時に入力したユーザ名とアプリケーション ユーザ パスワードを入力して、[Login] をクリックします。

ログインする前にユーザ名とパスワードをクリアするには、[Reset] をクリックします。



ヒント

System Administrator ロールまたは Technician ロールを持つユーザであれば、Cisco Unified Serviceability にアクセスできます。ユーザにこのロールを割り当てる方法の詳細については、『Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド』を参照してください。

追加情報

P.2-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (HTTPS) の使用方法

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [Internet Explorer における HTTPS の概要 \(P.2-3\)](#)
- [Internet Explorer を使用した、信頼されるフォルダへの証明書の保存 \(P.2-4\)](#)
- [Netscape を使用した、信頼されるフォルダへの証明書の保存 \(P.2-5\)](#)

ブラウザクライアントと Tomcat Web サーバ間の通信のセキュリティを保護する HTTPS は、証明書と公開鍵を使用して、インターネット上を転送されるデータを暗号化します。サーバの ID を確認する HTTPS は、Cisco Unified Serviceability などのアプリケーションをサポートしています。また、HTTPS では、ユーザ ログイン パスワードは確実にセキュリティ保護されて Web 経由で転送されます。

Internet Explorer における HTTPS の概要

ユーザが Cisco Unified Serviceability に初めてアクセスするときには、サーバを信頼するかどうかを確認する [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示された場合は、次のタスクのいずれかを実行する必要があります。

- [はい] をクリックして、現在の Web セッションでのみ証明書を信頼することを選択します。現在のセッションでのみ証明書を信頼する場合は、信頼されるフォルダに証明書がインストールされるまで、アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。
- [証明書の表示] > [証明書のインストール] をクリックして、証明書のインストールタスクを実行する意図があること、つまり常に証明書を信頼することを示します。信頼されるフォルダに証明書をインストールすると、Web アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されることがなくなります。
- [いいえ] をクリックして、アクションをキャンセルします。認証は行われず、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[はい] をクリックするか、[証明書の表示] > [証明書のインストール] オプションを使用して証明書をインストールする必要があります。



(注)

証明書は、ホスト名を使用して発行されます。IP アドレスを使用して Web アプリケーションにアクセスしようとする、クライアントに証明書がインストールされていても、[セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

追加情報

P.2-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Internet Explorer を使用した、信頼されるフォルダへの証明書の保存

Web アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されることがないように、信頼されるフォルダに CA ルート証明書をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Tomcat Web サーバ上のアプリケーションをブラウズします。
 - ステップ 2** [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[証明書の表示] をクリックします。
 - ステップ 3** [証明書] ペインで、[証明書のインストール] をクリックします。
 - ステップ 4** [次へ] をクリックします。
 - ステップ 5** [証明書をすべて次のストアに配置する] オプション ボタンをクリックして、[参照] をクリックします。
 - ステップ 6** [信頼されたルート証明機関] を参照します。
 - ステップ 7** [次へ] をクリックします。
 - ステップ 8** [完了] をクリックします。
 - ステップ 9** 証明書をインストールするには、[はい] をクリックします。

インポートが正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
 - ステップ 10** ダイアログボックスの右下にある [OK] をクリックします。
 - ステップ 11** 証明書を信頼して、ダイアログボックスが再度表示されないようにするには、[はい] をクリックします。
-

追加情報

P.2-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Netscape を使用した、信頼されるフォルダへの証明書の保存

Netscape で HTTPS を使用する場合、証明書クレデンシャルを表示し、1 回のセッションで証明書を信頼する、有効期限が切れるまで証明書を信頼する、証明書を信頼しない、のいずれかを実行できます。



ヒント

1 回のセッションでのみ証明書を信頼する場合は、HTTPS がサポートされているアプリケーションにアクセスするたびに、次の手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合、アプリケーションにはアクセスできません。

信頼されるフォルダに証明書を保存するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Netscape を使用して、アプリケーション（たとえば Cisco Unified Serviceability）をブラウズします。

認証局のダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

- この証明書をこのセッションのために一時的に受け入れる
- この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない
- この証明書を永続的に受け入れる



(注) [この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない] を選択すると、アプリケーションは表示されません。



(注) 続行する前に証明書クレデンシャルを表示するには、[証明書を調査] をクリックします。クレデンシャルを確認して、[閉じる] をクリックします。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

[セキュリティに関する警告] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

追加情報

P.2-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified Serviceability インターフェイスの使用法

Cisco Unified Serviceability では、トラブルシューティングおよびサービス関連のタスクに加えて、次のタスクを実行できます。

- 単一ウィンドウのマニュアルを表示するには、Cisco Unified Serviceability の **[Help]** > **[This Page]** を選択します。
- このリリースで使用できるマニュアルのリストを表示する（または、オンライン ヘルプの索引にアクセスする）には、Cisco Unified Serviceability の **[Help]** > **[Contents]** を選択します。
- サーバ上で動作する Cisco Unified Serviceability のバージョンを確認するには、**[Help]** > **[About]** を選択するか、ウィンドウの右上にある **[About]** リンクをクリックします。
- 設定ウィンドウから Cisco Unified Serviceability のホーム ページに直接移動するには、ウィンドウの右上にある **[Navigation]** ドロップダウン リスト ボックスから **[Cisco Unified Serviceability]** を選択します。
- 他のアプリケーションの GUI にアクセスするには、ウィンドウの右上にある **[Navigation]** ドロップダウン リスト ボックスから該当するアプリケーションを選択して、**[Go]** をクリックします。
- Cisco Unified Serviceability からログアウトするには、**[Cisco Unified Serviceability]** ウィンドウの右上にある **[Logout]** リンクをクリックします。
- 各 Cisco Unified Serviceability 設定ウィンドウには、ウィンドウの下部にある設定ボタンに対応する設定アイコンが表示されます。たとえば、**[Save]** アイコンまたは **[Save]** ボタンのいずれかをクリックして、タスクを完了できます。



ヒント

Cisco Unified Serviceability は、ブラウザ内のボタンはサポートしません。設定タスクを実行するときは、**[戻る]** ボタンなど、ブラウザのボタンは使用しないでください。

アクセシビリティ機能の使用法

Cisco Unified Serviceability には、ユーザがマウスを使用しないで、ウィンドウ上のボタンにアクセスするための機能が用意されています。このナビゲーションショートカットは、視覚に障害があるユーザがアプリケーションを使用できるよう支援するものです。

表 2-1 は、キーボードショートカットを使用してインターフェイスをナビゲートするためのガイドを示しています。

表 2-1 Cisco Unified Serviceability 用のナビゲートショートカット

キーストローク	アクション
Alt	ブラウザのメニューバーにフォーカスを移動します。
Enter	フォーカスされている項目(メニュー オプション、ボタンなど)を選択します。
Alt、上矢印キー	ブラウザのメニュー間を移動します。
Alt + 下線が引かれた文字	メニューに移動します。たとえば、Alt+A の場合は、[Alarms] メニューに移動します。
スペースバー	コントロールを切り替えます。たとえば、チェックボックスのオンとオフを切り替えます。
Tab	フォーカスをタブ順の次の項目、または次のコントロールグループに移動します。
Shift + Tab	フォーカスをタブ順の前の項目またはグループに移動します。
矢印キー	グループ内のコントロール間で移動します。
Home	複数の画面にわたって情報が表示される場合は、ウィンドウの先頭に移動します。また、ユーザが入力したテキストの行の先頭に移動します。
End	ユーザが入力したテキストの行の末尾に移動します。 複数の画面にわたって情報が表示される場合は、ウィンドウの末尾に移動します。
Page Up	1 画面上にスクロールします。
Page Down	1 画面下にスクロールします。

関連情報の参照先

- *Real-Time Monitoring Tool* アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
- *Cisco Unity Connection* サービスアビリティ アドミニストレーションガイド
- *Cisco Unity Connection* システム アドミニストレーションガイド

追加情報

P.2-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified Serviceability へのアクセス \(P.2-2 \)](#)
- [Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer \(HTTPS \) の使用方法 \(P.2-3 \)](#)
- [Cisco Unified Serviceability インターフェイスの使用方法 \(P.2-6 \)](#)
- [アクセシビリティ機能の使用方法 \(P.2-7 \)](#)



アラームについて

この章では Cisco Unified Serviceability のアラームについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [アラームについて \(P.3-1\)](#)
- [アラーム設定 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム定義 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム設定のチェックリスト \(P.3-3\)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.3-4\)](#)

アラームについて

Cisco Unified Serviceability のアラームは、実行時のステータスやシステムの状態についての情報を提供します。この情報を使用して、Disaster Recovery System の問題の識別など、システムに関連する問題をトラブルシューティングできます。トラブルシューティングに役立つよう、アラーム情報（説明および推奨アクションを含む）には、アプリケーション名、マシン名なども含まれています。

アラーム情報を複数のロケーションに送信するようにアラーム インターフェイスを設定します。各ロケーションには、独自のアラーム イベント レベル（デバッグから緊急まで）があります。アラームは、Syslog Viewer（ローカル syslog）、Syslog ファイル（リモート syslog）、SDI トレース ファイル、またはすべての送信先に転送できます。1 つのサービスでアラームが生成された場合、アラーム インターフェイスから、ユーザが設定したロケーション（および、アラーム定義でルーティングリストに指定されたロケーション）にアラーム情報が送信されます（たとえば、SDI トレース）。システムは、アラーム情報を転送するか、最終送信先（ログ ファイルなど）に書き込むことができます。



ヒント

リモート Syslog サーバとして Cisco Unified Communications Manager サーバを指定しないでください。このサーバは、他のサーバから syslog メッセージを受信できません。

SDI トレース ログ ファイルに送信されるアラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のトレース収集とログ集中管理オプションを使用します。ローカル syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT の SysLog Viewer を使用します。

アラーム設定

Cisco Database Layer Monitor などのサービスのアラームを設定できます。

サービスのアラームを設定するには、Error などのアラーム イベント レベルや、Syslog Viewer(ローカル syslog) など、システムがアラーム情報を送信するロケーションを選択します。イベント レベルを選択すると、収集されるアラームのタイプを絞り込み、Syslog およびトレース ファイルが過負荷になるのを回避できます。アラーム設定とアラーム定義の関連付けの詳細については、P.3-2 の「アラーム定義」を参照してください。

アラーム定義

参照のために使用されるアラーム定義には、アラーム メッセージの説明、つまりその意味と回復方法が記述されます。[Alarm Definitions] ウィンドウでアラーム情報を検索します。サービス固有のアラーム定義をクリックすると、アラーム情報の説明(ユーザが追加したユーザ定義テキストを含む) および推奨されているアクションが表示されます。

Cisco Unified Serviceability に表示される、すべてのアラームの定義を検索できます。問題のトラブルシューティングを支援するために、対応するカタログに存在する定義には、アラーム名、記述、説明、推奨アクション、重大度、パラメータ、モニタなどが含まれています。

システムがアラームを生成するときは、アラーム情報内のアラーム定義名が使用されるので、ユーザはアラームを識別することができます。アラーム定義では、アラーム情報が送信される場所を指定するルーティング リストを表示できます。ルーティング リストには、次に示すロケーションが含まれている場合があります。これらのロケーションは、[Alarm Configuration] ウィンドウで設定できるロケーションに対応しています。

- SDI : このオプションのアラームをイネーブルにして、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報は SDI トレースに送信されます。
- Sys Log : このオプションのアラームをイネーブルにして、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定し、リモート syslog サーバのサーバ名または IP アドレスを入力すると、アラーム情報はリモート syslog サーバに送信されます。
- Event Log : このオプションのアラームをイネーブルにして、[Alarm Configuration] ウィンドウで該当するイベント レベルを指定すると、アラーム情報はローカル syslog に送信されます。ローカル syslog は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の SysLog Viewer で表示できます。
- Data Collector : リアルタイム情報システム (RIS Data Collector) にアラーム情報が送信されず (アラート目的のみ)、このオプションは、[Alarm Configuration] ウィンドウでは設定できません。

[Alarm Configuration] ウィンドウに指定されたロケーションの設定済みアラーム イベント レベルが、アラーム定義にリストされている重大度以下の場合、アラームが送信されます。たとえば、アラーム定義内の重大度が WARNING_ALARM であり、[Alarm Configuration] ウィンドウで特定の送信先のアラーム イベント レベルが [Warning]、[Notice]、[Informational]、または [Debug] (下位のイベント レベル) に設定されている場合、アラームは対応する送信先に送信されます。アラーム イベント レベルを [Emergency]、[Alert]、[Critical]、または [Error] に設定すると、アラームは対応するロケーションに送信されません。

Cisco Unified Serviceability アラーム定義ごとに、説明または推奨を追加できます。追加情報には、すべての管理者がアクセスできます。[Alarm Details] ウィンドウに表示される [User Defined Text] ペインに、情報を直接入力します。標準の横および縦方向スクロール バーは、スクロールをサポートしています。Cisco Unified Serviceability によって、情報がデータベースに追加されます。

アラーム情報の表示

アラーム情報を表示して、問題が存在するかどうかを判別します。アラーム情報を表示するために使用する方法は、アラームの設定時に選択した送信先によって異なります。SDI トレース ログ ファイルに送信されたアラーム情報を表示するには、RTMT のトレース収集とログ集中管理オプション、またはテキスト エディタを使用します。ローカル syslog に送信されたアラーム情報を表示するには、RTMT の SysLog Viewer を使用します。

アラーム設定のチェックリスト

表 3-1 は、アラーム設定の手順の概要を示しています。

表 3-1 アラーム設定のチェックリスト

設定手順	関連手順と項目
ステップ 1 アラーム情報の対象のサーバおよびサービスを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> アラームについて (P.3-1) サービスに関するアラームの設定 (P.4-2)
ステップ 2 アラームの送信先を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> すべてのサービスから、SDI ログに移動できます (ただし、トレースにも設定されている必要があります)。 すべてのサービスから、SysLog Viewer に移動できます。 リモート Syslog サーバに syslog メッセージを送信するには、リモート Syslog 送信先を選択して、ホスト名を指定します。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスに関するアラームの設定 (P.4-2) アラームの設定 (P.4-4)
ステップ 3 アラーム イベント レベルを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> サービスに関するアラームの設定 (P.4-2) アラームの設定 (P.4-4)
ステップ 4 必要に応じて、アラームに定義を追加します。	<ul style="list-style-type: none"> アラーム定義 (P.3-2) アラーム定義の表示および更新 (P.5-1)
ステップ 5 アラーム送信先として SDI トレース ファイルを選択した場合は、RTMT のトレース収集とログ集中管理オプションを使用してトレースを収集し、情報を表示します。	<i>Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection</i>
ステップ 6 アラーム送信先としてローカル syslog を選択した場合は、RTMT の SysLog Viewer でアラーム情報を表示します。	<i>Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection</i>
ステップ 7 説明および推奨アクションについては、対応するアラーム定義を参照してください。	アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 (P.5-2)

関連情報の参照先

関連項目

- [サービスに関するアラームの設定 \(P.4-2\)](#)
- [アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 \(P.5-2\)](#)
- [システムアラーム カタログの説明 \(P.5-3\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*
- *Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド*



アラームの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [サービスに関するアラームの設定 \(P.4-2\)](#)
- [アラーム設定でのサービス グループ \(P.4-3\)](#)
- [アラームの設定 \(P.4-4\)](#)
- [関連項目 \(P.4-5\)](#)

サービスに関するアラームの設定

この項では、Cisco Unified Serviceability を使用して管理する機能サービスまたはネットワーク サービスのアラームを、追加または更新する方法について説明します。



(注) SNMP トラップおよびカタログ設定は、変更しないことをお勧めします。

Cisco Unity Connection は、Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なアラームも使用します。アラームは、Cisco Unity Connection Serviceability では設定できません。詳細については、『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーションガイド』を参照してください。

標準のレジストリ エディタの使用方法の詳細については、OS のオンライン マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [Alarm] > [Configuration] を選択します。

[Alarm Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、アラームを設定する対象のサーバを選択して、[Go] をクリックします。

ステップ 3 [Service Group] ドロップダウン リスト ボックスから、アラームを設定する対象のサービス カテゴリ (たとえば [Database and Admin Services]) を選択して、[Go] をクリックします。



ヒント サービス グループに対応するサービスの一覧については、表 4-1 を参照してください。

ステップ 4 [Service] ドロップダウン リスト ボックスから、アラームを設定する対象のサービスを選択して、[Go] をクリックします。

サービス グループとユーザの設定をサポートするサービスのみが表示されます。



ヒント ドロップダウン リスト ボックスには、アクティブおよび非アクティブのサービスが表示されます。

[Alarm Configuration] ウィンドウに、選択したサービスのアラーム モニタの一覧とイベント レベルが表示されます。さらに、[Apply to All Nodes] チェックボックスが表示されます。



ヒント [Apply to All Nodes] チェックボックスは、Cisco Unity Connection には適用されません。

ステップ 5 表 4-2 の説明に従って設定します。この表には、モニタとイベント レベルの説明が含まれています。

ステップ6 設定を保存するために、[Save] ボタンをクリックします。



(注) デフォルトを設定するには、[Set Default] ボタンをクリックして、[Save] をクリックします。

追加情報

P.4-5 の「関連項目」を参照してください。

アラーム設定でのサービスグループ

表 4-1 は、[Alarm Configuration] ウィンドウの [Service Group] ドロップダウン リスト ボックス内のオプションに対応するサービスの一覧を示しています。

表 4-1 アラーム設定でのサービスグループ

サービスグループ	サービス	注記
Database and Admin Services	Cisco Database Layer Monitor	このサービスの説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。
Performance and Monitoring Services	Cisco AMC Service および Cisco RIS Data Collector	これらのサービスの説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。
Backup and Restore Services	Cisco DRF Local および Cisco DRF Master	これらのサービスの説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。
System Services	Cisco Trace Collection Service	このサービスの説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。
Platform Services	Cisco Tomcat	このサービスの説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。

アラームの設定

表 4-2 は、すべてのアラームの設定値を示しています。ただし、サービスでこの設定値をサポートしない場合もあります。関連手順については、P.4-5 の「関連項目」を参照してください。

表 4-2 アラームの設定




名前	説明
Server	ドロップダウン リスト ボックスから、アラームを設定する対象のサーバを選択して、[Go] をクリックします。
Service Group	ドロップダウン リスト ボックスから、アラームを設定する対象のサービス カテゴリ (たとえば [Database and Admin Services]) を選択して、[Go] をクリックします。
Service	[Service] ドロップダウン ボックスから、アラームを設定する対象のサービスを選択して、[Go] をクリックします。 サービス グループとユーザの設定をサポートするサービスのみが表示されます。  ヒント ドロップダウン リスト ボックスには、アクティブおよび非アクティブのサービスが表示されます。
Apply to All Nodes	[Apply to All Nodes] チェックボックスは、Cisco Unity Connection には適用されません。
Enable Alarm for Local Syslogs	SysLog Viewer は、アラーム送信先として機能します。プログラムは、SysLog Viewer 内のアプリケーション ログにエラーを記録し、アラームの説明および推奨されているアクションを提供します。SysLog Viewer には、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool からアクセスできます。 SysLog Viewer でのログ表示の詳細については、『 <i>Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection</i> 』を参照してください。
Enable Alarm for Remote Syslogs	SysLog ファイルは、アラーム送信先として機能します。このチェックボックスは、Syslog サーバへの Syslog メッセージの保存をイネーブルにして、Syslog サーバ名を指定する場合にオンにします。この送信先がイネーブルであるが、サーバ名が指定されない場合、Cisco Unified Serviceability は Syslog メッセージを送信しません。  ヒント [Server] フィールドには、Syslog メッセージの受信に使用するリモート Syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。たとえば、CiscoWorks 2000 にアラームを送信する場合には、CiscoWorks 2000 サーバ名を指定します。  ヒント Cisco Unified Communications Manager サーバは別のサーバから Syslog メッセージを受信しないので、送信先として Cisco Unified Communications Manager サーバを指定しないでください。

表 4-2 アラームの設定 (続き)

名前	説明
Enable Alarm for SDI Trace	SDI トレース ライブラリは、アラーム送信先として機能します。 アラームを SDI トレース ログ ファイルに記録するには、このチェックボックスをオンにして、選択したサービスの [Trace Configuration] ウィンドウの [Trace On] チェックボックスをオンにします。Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで値を設定するための詳細については、P.7-2 の「 トレースパラメータの設定 」を参照してください。
Alarm Event Level	ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Emergency : このレベルは、システムが使用不能であることを示します。 • Alert : このレベルは、ただちにアクションが必要なことを示します。 • Critical : このレベルは、クリティカルな状態が検出されたことを示します。 • Error : このレベルは、エラー状態が存在することを示します。 • Warning : このレベルは、警告状態が検出されたことを示します。 • Notice : このレベルは、正常であるが、重要な状態が存在することを示します。 • Informational : このレベルは、通知メッセージのみを示します。 • Debug : このレベルは、Cisco TAC エンジニアがデバッグに使用する、詳細なイベント情報を示します。

関連項目

- [サービスに関するアラームの設定 \(P.4-2\)](#)
- [アラーム設定でのサービス グループ \(P.4-3\)](#)
- [アラームの設定 \(P.4-4\)](#)
- [アラームについて \(P.3-1\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*
- *Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド*



アラーム定義の表示および更新

この章では、Cisco Unified Serviceability に表示されるアラーム定義に関するユーザ情報を検索、表示、および作成するための手順について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 \(P.5-2\)](#)
- [システムアラーム カタログの説明 \(P.5-3\)](#)
- [関連項目 \(P.5-4\)](#)

アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加

この項では、Cisco Unified Serviceability でアラーム定義を検索および表示する方法について説明します。



ヒント

Cisco Unity Connection Serviceability では、Cisco Unity Connection アラーム定義を表示できます。Cisco Unity Connection Serviceability では、ユーザ定義の記述をアラーム定義に追加することはできません。

Cisco Unity Connection は、Cisco Unified Serviceability の特定のアラーム定義も使用します。これらのアラーム定義は、Cisco Unified Serviceability で表示する必要があります。表 5-1 でカタログに関連付けられているアラームは、表示目的で使用可能であることに注意してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Serviceability で、[Alarm] > [Definitions] を選択します。

[Alarm Message Definitions] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Find alarms where] ドロップダウン リスト ボックスから、定義を表示する対象のカタログを選択します。

ステップ 3 [Equals] ドロップダウン リスト ボックスからアラーム定義のカタログを選択するか、[Enter Alarm Name] フィールドにアラーム名を入力します。[System Alarm Catalog] オプションのリストについては、表 5-1 を参照してください。[Find] ボタンをクリックします。

選択したアラーム カタログの定義リストが表示されます。



ヒント

アラーム定義は複数のページにわたっている場合があります。別のページを選択するには、[Alarm Message Definitions] ウィンドウの下部の該当するナビゲート ボタンをクリックするか、[Page] フィールドにページ番号を入力します。ウィンドウに表示されるアラーム数を変更するには、[Rows per Page] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択します。

ステップ 4 リストから、アラーム詳細（記述、アラーム重大度など）を表示する対象のアラーム定義のハイパーリンクをクリックします。

[Alarm Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 アラームに情報を追加する場合は、[User Defined Text] ペインにテキストを入力して、[Save] ボタンをクリックします。



ヒント

[User Defined Text] ペインから説明を削除するには、[Clear All] ボタンをクリックします。

ステップ 6 [Alarm Message Definitions] ウィンドウに戻るには、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックス から [Back to Find/List Alarms] を選択して、[Go] をクリックします。


追加情報

P.5-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

システムアラーム カタログの説明

表 5-1 は、システムアラーム カタログのアラーム説明を示しています。

表 5-1 システム カタログ

名前	説明
ClusterManagerAlarmCatalog	このアラーム カタログは、Cisco Unity Connection ではサポートされません。
DBAlarmCatalog	すべてのシスコ データベース (aupair) アラーム定義。
DRFAlarmCatalog	すべての Disaster Recovery System アラーム定義。
GenericAlarmCatalog	すべてのアプリケーションが共有する、すべての汎用アラーム定義。
JavaApplications	すべての Java アプリケーション アラーム定義。  ヒント アラーム設定 GUI を使用して JavaApplications アラームを設定することはできません。一般的にこれらのアラームは、イベントログに移動するために設定します。アラーム定義およびパラメータを表示または変更するには、オペレーティングシステムに付属するレジストリ エディタを使用します。
LoginAlarmCatalog	すべてのログイン関連アラーム定義。
LpmTctCatalog	すべてのログパーティション モニタリングおよびトレース収集アラーム定義。
RTMTAlarmCatalog	すべての Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool アラーム定義。
SystemAccessCatalog	SystemAccess がすべてのスレッド統計カウンタとすべてのプロセス統計カウンタを提供するかどうかの追跡に使用される、すべてのアラーム定義。
ServiceManagerAlarmCatalogs	サービスのアクティブ化、非アクティブ化、起動、再起動、および停止に関連した、すべてのサービス マネージャ アラーム定義。
TFTPAlarmCatalog	すべての Cisco TFTP アラーム定義。
TestAlarmCatalog	コマンドライン インターフェイス (CLI) から SNMP トラップを使用してテストアラームを送信するために使用される、すべてのアラーム定義。CLI の詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

追加情報

P.5-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [アラームについて \(P.3-1\)](#)
- [アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 \(P.5-2\)](#)
- [システム アラーム カタログの説明 \(P.5-3\)](#)



トレースについて

この章では Cisco Unified Serviceability トレースについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [トレースについて \(P.6-2\)](#)
- [トレースの設定 \(P.6-2\)](#)
- [トラブルシューティング トレースの設定値 \(P.6-3\)](#)
- [トレース収集 \(P.6-3\)](#)
- [トレース設定および収集のチェックリスト \(P.6-4\)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.6-5\)](#)

トレースについて

Cisco Unified Serviceability には、音声アプリケーションに関する問題のトラブルシューティングを支援するトレース ツールが用意されています。Cisco Unified Serviceability は、System Diagnostic Interface (SDI; システム診断インターフェイス) トレースおよび Log4J トレース (Java アプリケーション用) をサポートします。

トレースする情報のレベル、および各トレース ファイルに格納する情報のタイプを指定するには、[Trace Configuration] ウィンドウを使用します。

[Alarm Configuration] ウィンドウでは、SDI トレース ログ ファイルなどの各ロケーションに、アラームを転送できます。転送する場合は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool で、アラートに関するトレースを設定できます。

さまざまなサービスについて、トレース ファイルに格納する情報を設定した後は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のトレース収集とログ集中管理オプションを使用して、トレース ファイルを収集して表示できます。

トレースの設定

Cisco Unified Serviceability に表示される任意の機能サービスまたはネットワーク サービスのトレース パラメータを設定できます。問題のトラブルシューティングのためにトレースするパラメータを指定するには、[Trace Configuration] ウィンドウを使用します。

トレースする情報のレベル (デバッグ レベル)、トレースする情報 (トレース フィールド)、およびトレース ファイルに関する情報 (サービスごとのファイル数、ファイルのサイズ、データがトレース ファイルに保存されている時間など) を設定できます。

独自のトレース フィールドを選択しないで、事前設定のトラブルシューティング トレース設定値を使用する場合は、[Troubleshooting Trace] ウィンドウを使用します。トラブルシューティング トレースの詳細については、P.6-3 の「[トラブルシューティング トレースの設定値](#)」を参照してください。

さまざまなサービスについて、トレース ファイルに格納する情報を設定した後は、RTMT のトレース収集とログ集中管理オプションを使用して、トレース ファイルを収集できます。トレース収集の詳細については、P.6-3 の「[トレース収集](#)」を参照してください。

トラブルシューティング トレースの設定値

[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象である Cisco Unified Serviceability サービスを選択できます。このウィンドウでは、単一サービスまたは複数サービスを選択し、これらのサービスのトレース設定値を、事前設定のトレース設定値に変更することができます。ウィンドウでは、非アクティブのサービスの横には N/A が表示されます。



(注)

サービスの事前設定のトラブルシューティング トレース設定には、SDI および Log4j トレース設定などがあります。トラブルシューティング トレース設定を適用する前に、システムによって元のトレース設定がバックアップされます。トラブルシューティング トレース設定をリセットすると、元のトレース設定が復元されます。

サービスにトラブルシューティング トレース設定を適用した後に [Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウを開くと、トラブルシューティング用に設定したサービスがチェックマークを付けられて表示されます。[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウで、トレース設定を元の設定にリセットできます。

[Troubleshooting Trace Setting] をサービスに適用すると、[Trace Configuration] ウィンドウに、指定のサービスにトラブルシューティング トレースが設定されたことを示すメッセージが表示されます。サービスの設定をリセットする場合は、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックスから、[Troubleshooting Trace Settings] オプションを選択できます。指定のサービスについて、[Trace Configuration] ウィンドウにはすべての設定が読み取り専用として表示されます。ただし、トレース出力設定の一部のパラメータ (Maximum No. of Files など) は除きます。このパラメータは、トラブルシューティング トレース設定を適用した後も変更できます。

トレース収集

さまざまなサービス トレースまたは他のログ ファイルを収集、表示、および圧縮するには、Trace and Log Central (Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool のオプション) を使用します。Trace and Log Central オプションを使用すると、SDL/SDI トレース、アプリケーションログ、システム ログ (イベント表示アプリケーション、セキュリティ、システム ログなど) およびクラッシュ ダンプ ファイルを収集できます。



ヒント

CSA ログを収集するには、RTMT の [Select System Logs] タブの [Cisco Security Agent] チェックボックスをオンにします。ログインおよびログアウトするユーザに関する情報が格納されたユーザ ログにアクセスするには、[Select System Logs] タブの [Security Logs] チェックボックスをオンにします。



ヒント

収集されたトレース ファイルの表示にはメモ帳を使用しないでください。


トレース収集の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

■ トレース設定および収集のチェックリスト

トレース設定および収集のチェックリスト

表 6-1 は、Cisco Unified Serviceability で機能サービスおよびネットワーク サービスのトレースを設定および収集する手順の概要を示しています。

表 6-1 トレース設定および収集のチェックリスト

設定手順	関連手順と項目
ステップ 1 Cisco Unity Connection の管理で [システム設定 (System Settings)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択して、トレースに使用可能なデバイスの最大数を設定します。[Max Number of Device Level Trace] フィールドに値を入力します。デフォルトでは、12 が指定されます。	Cisco Unity Connection システム アドミニストレーションガイド
ステップ 2 トレースを収集する対象のサービスのトレース設定値を設定します。 トレース設定値を設定するには、デバッグ レベルおよびトレース フィールドを選択して、トレースに組み込む情報を選択します。 サービスに対して事前設定トレースを実行する場合は、それらのサービスに対してトラブルシューティングトレースを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> トレースの設定 (P.7-1) トラブルシューティング トレースの設定 (P.8-1)
ステップ 3 ローカル PC に Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool をインストールします。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 4 モニタ対象トレース ファイルに、指定された検索ストリングが存在するときにアラームが生成されるようにするには、RTMT の LogFileSearchStringFound アラートをイネーブルにします。 LogFileSearchStringFound アラームは、LpmTctCatalog にありません (Cisco Unified Serviceability で、[Alarms] > [Definitions] を選択します。[Find alarms where] ドロップダウン リストボックスの [System Alarm Catalog] を選択します。[Equals] ドロップダウン リストボックスの [LpmTctCatalog] を選択します)。	<ul style="list-style-type: none"> Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 (P.5-2)
ステップ 5 CriticalServiceDownand CodeYellow などのアラートのトレースを自動的に取り込む場合は、RTMT で特定のアラートに対する [Set Alert/Properties] ダイアログボックスの [Enable Trace Download] チェックボックスをオンにします。ダウンロードが発生する頻度を設定します。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 6 トレースを収集します。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 7 適切なビューアでログ ファイルを表示します。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 8 トラブルシューティング トレースをイネーブルにした場合は、元の設定が復元されるように、トレース設定サービスをリセットします。  (注) トラブルシューティング トレースを長時間イネーブルにすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響することがあります。	トラブルシューティング トレースの設定 (P.8-1)

関連情報の参照先

関連項目

- [アラームについて \(P.3-1\)](#)
- [アラーム設定のチェックリスト \(P.3-3\)](#)
- [トラブルシューティング トレースの設定 \(P.8-1\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*
- *Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド*



トレースの設定



(注)

トレースをイネーブルにすると、システム パフォーマンスは低下します。したがって、トレースは、トラブルシューティングを行う場合だけイネーブルにしてください。トレースの使用方法については、技術サポートチームに問い合せてください。

この章は、次の項で構成されています。

- [トレース パラメータの設定 \(P.7-2\)](#)
- [トレース設定でのサービス グループ \(P.7-4\)](#)
- [デバッグトレース レベルの設定 \(P.7-6\)](#)
- [トレース フィールドの説明 \(P.7-7\)](#)
- [トレース出力設定の説明およびデフォルト \(P.7-8\)](#)
- [関連項目 \(P.7-9\)](#)

トレースパラメータの設定

この項では、Cisco Unified Serviceability を使用して管理する機能サービスおよびネットワークサービスのトレースパラメータを設定する方法について説明します。



ヒント

Cisco Unity Connection の場合、Cisco Unity Connection の問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability および Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを実行することが必要な場合があります。Cisco Unified Serviceability でサポートされるサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを実行します。同様に、Cisco Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを実行します。Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを実行する方法の詳細については、『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

手順

ステップ 1 [Trace] > [Configuration] を選択します。

[Trace Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、トレースを設定する対象のサービスを実行するサーバを選択して、[Go] をクリックします。

ステップ 3 [Service Group] ドロップダウン リスト ボックスから、トレースを設定する対象のサービスのサービスグループを選択して、[Go] をクリックします。



ヒント

表 7-1 は、[Service Group] ドロップダウン リスト ボックスに表示されるオプションに対応する、サービスおよびトレース ライブラリの一覧を示しています。

ステップ 4 [Service] ドロップダウン リスト ボックスから、トレースを設定する対象のサービスを選択して、[Go] をクリックします。

ドロップダウン リスト ボックスに、アクティブおよび非アクティブのサービスが表示されます。

サービスのトラブルシューティング トレースを設定済みの場合は、ウィンドウの上部に、トラブルシューティング トレース機能が設定されていることを示すメッセージが表示されます。これは、[Trace Configuration] ウィンドウ内の [Trace Output Settings] を除くすべてのフィールドがディセーブルになることを意味します。[Trace Output Settings] を設定するには、[ステップ 9](#)に進みます。トラブルシューティング トレースをリセットするには、[P.8-1](#)の「[トラブルシューティング トレースの設定](#)」を参照してください。

選択したサービスのトレースパラメータが表示されます。さらに、[Apply to All Nodes] チェックボックスが表示されます。



ヒント

[Apply to All Nodes] チェックボックスは、Cisco Unity Connection には適用されません。

- ステップ 5** [Trace On] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [Debug Trace Level] ドロップダウン リストボックスから、[P.7-6 の「デバッグトレースレベルの設定」](#)の説明に従って、トレースする情報のレベルを選択します。
- ステップ 7** 選択したサービスに対応する [Trace Fields] チェックボックスをオンにします(たとえば、[Cisco Log Partition Monitoring Tool Trace Fields])。
- ステップ 8** サービスに、アクティブ化するトレースを指定できる複数のトレース設定がない場合は、[Enable All Trace] チェックボックスをオンにします。選択したサービスに複数のトレース設定がある場合は、次の項の説明に従って、イネーブルにするトレースの横のチェックボックスをオンにします。
- [Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールド \(P.7-7\)](#)
 - [Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド \(P.7-7\)](#)
- ステップ 9** トレース ファイルの数とサイズを制限するには、トレース出力設定を指定します。説明およびデフォルト値については、[表 7-6](#) を参照してください。
- ステップ 10** トレースパラメータ設定を保存するには、[Save] ボタンをクリックします。

トレース設定に対する変更は、ただちにすべてのサービスに対して有効になります。



(注) デフォルトを設定するには、[Set Default] ボタンをクリックします。

追加情報

[P.7-9 の「関連項目」](#)を参照してください。

トレース設定でのサービスグループ

表 7-1 は、[Trace Configuration] ウィンドウの [Service Group] ドロップダウン リスト ボックス内のオプションに対応するサービスおよびトレース ライブラリの一覧を示しています。

表 7-1 トレース設定でのサービスグループ

サービスグループ	サービスおよびトレース ライブラリ	注記
Database and Admin Services	Cisco AXL Web Service、Cisco CCM DBL Web Library、Cisco CCMAdmin Web Service、Cisco Database Layer Monitor	<p>これらのサービス (Cisco CCM DBL Web Library を除く) の説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。</p> <p>[Cisco CCM DBL Web Library] オプションを選択すると、Java アプリケーション用のデータベース アクセスのトレースがアクティブになります。C++ アプリケーション用のデータベース アクセスの場合は、P.7-7 の「Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールド」の説明に従って、Cisco Database Layer Monitor のトレースをアクティブにします。</p> <p>Database and Admin Services グループのほとんどのサービスでは、特定のコンポーネントのトレースをイネーブルにするのではなく、サービス / ライブラリのすべてのトレースをイネーブルにします。Cisco Database Layer Monitor では、特定のコンポーネントのトレースを実行できます。</p>
Performance and Monitoring Services	Cisco AMC Service、Cisco CCM NCS Web Library、Cisco Log Partition Monitoring Tool、Cisco RIS Data Collector、および Cisco RTMT Web Service	<p>これらのサービス (Cisco CCM NCS Web Library および Cisco RTMT Web Service を除く) の説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。</p> <p>[Cisco CCM NCS Web Library] オプションを選択すると、Java クライアント用のデータベース変更通知のトレースがアクティブになります。</p> <p>[Cisco RTMT Web Service] オプションを選択すると、RTMT servlet のトレースがアクティブになります。このトレースを実行すると、RTMT クライアント クエリーのサーバ側のログが作成されます。</p>
Backup and Restore Services	Cisco DRF Local および Cisco DRF Master	<p>これらのサービスの説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行するのではなく、各サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>

表 7-1 トレース設定でのサービスグループ (続き)

サービスグループ	サービスおよびトレース ライブラリ	注記
System Services	Cisco CCMRealm Web Service、Cisco CCMSERVICE Web Service、Cisco Common User Interface、および Cisco Trace Collection Service	<p>Cisco Trace Collection Service の説明については、P.9-1 の「サービスについて」を参照してください。</p> <p>[Cisco CCMRealm Web Service] オプションを選択すると、ログイン認証のトレースがアクティブになります。</p> <p>[Cisco Common User Interface] オプションを選択すると、複数のアプリケーション(たとえば、Cisco Unified オペレーティングシステムの管理ページおよび Cisco Unified Serviceability)が使用する共通コードのトレースがアクティブになります。</p> <p>[Cisco CCMSERVICE Web Service] オプションを選択すると、Cisco Unified Serviceability Web アプリケーション (GUI) のトレースがアクティブになります。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行するのではなく、各オプション/サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>
SOAP Services	Cisco SOAP Web Service	<p>[Cisco SOAP Web Service] オプションを選択すると、AXL Serviceability API 用のトレースがアクティブになります。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行するのではなく、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>
Platform Services	Cisco Unified OS Admin Web Service	<p>Cisco Unified OS Admin Web Service は Cisco Unified オペレーティングシステムの管理ページをサポートするものです。Cisco Unified オペレーティングシステムの管理ページは、証明書管理、バージョン設定、インストールおよびアップグレードなどのプラットフォーム関連機能を管理するための Web アプリケーションです。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行するのではなく、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>

デバッグトレースレベルの設定

表 7-2 では、サービスのデバッグトレースレベルの設定について説明します。

表 7-2 サービスのデバッグトレースレベル


レベル	説明
Error	アラーム状態およびイベントをトレースします。異常パスで生成されるすべてのトレースに使用されます。CPU サイクルの最小数を使用します。
Special	すべての Error 状態と、プロセスおよびデバイス初期化メッセージをトレースします。
State Transition	すべての Special 状態と、通常運用時に発生するサブシステム状態遷移をトレースします。コール処理イベントをトレースします。
Significant	すべての State Transition 状態と、通常運用時に発生するメディアレイヤイベントをトレースします。
Entry/Exit	 <p>(注) サービスによっては、このトレースレベルを使用しない場合があります。</p>
	すべての Significant 状態と、ルーチンの入口点および出口点をトレースします。
Arbitrary	すべての Entry/Exit 状態と、低レベルデバッグ情報をトレースします。
Detailed	すべての Arbitrary 状態と、詳細デバッグ情報をトレースします。

表 7-3 では、servlet のデバッグトレースレベルの設定について説明します。

表 7-3 servlet のデバッグトレースレベル

レベル	説明
Fatal	アプリケーションの異常終了を引き起こす可能性がある、非常に重大なエラーイベントをトレースします。
Error	アラーム状態およびイベントをトレースします。異常パスで生成されるすべてのトレースに使用されます。
Warn	障害を起こす可能性のある状態をトレースします。
Info	servlet の問題の大部分をトレースします。システムパフォーマンスへの影響は最小です。
Debug	<p>すべての State Transition 状態と、通常運用時に発生するメディアレイヤイベントをトレースします。</p> <p>すべてのログインをオンにするトレースレベルです。</p>

追加情報

P.7-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トレースフィールドの説明

一部のサービスでは、サービスのすべてのトレースをイネーブルにするのではなく、特定のコンポーネントのトレースをアクティブにすることができます。次の一覧には、特定のコンポーネントのトレースをアクティブにできるサービスが含まれています。サービスの各トレースフィールドの説明については、次のいずれかの項を参照してください。サービスが次の一覧に存在しない場合は、[Trace Configuration] ウィンドウにそのサービスの [Enable All Trace] チェックボックスが表示されます。

- [Cisco Database Layer Monitor のトレースフィールド \(P.7-7\)](#)
- [Cisco RIS Data Collector のトレースフィールド \(P.7-7\)](#)

Cisco Database Layer Monitor のトレースフィールド

表 7-4 では、Cisco Database Layer Monitor のトレースフィールドを説明します。

表 7-4 Cisco Database Layer Monitor のトレースフィールド

フィールド名	説明
Enable DB Library Trace	C++ アプリケーション用のデータベースライブラリトレースをアクティブにします。
Enable Service Trace	サービストレースをアクティブにします。
Enable DB Change Notification Trace	C++ アプリケーション用のデータベース変更通知トレースをアクティブにします。
Enable Unit Test Trace	このチェックボックスはオンにしないでください。シスコのエンジニアが、デバッグのために使用します。

追加情報

P.7-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco RIS Data Collector のトレースフィールド

表 7-5 では、Cisco RIS Data Collector のトレースフィールドを説明します。

表 7-5 Cisco RIS Data Collector のトレースフィールド

フィールド名	説明
Enable RISDC Trace	RIS Data Collector サービス (RIS) の RISDC スレッドのトレースをアクティブにします。
Enable System Access Trace	RIS Data Collector のシステム アクセス ライブラリのトレースをアクティブにします。
Enable Link Services Trace	RIS Data Collector のリンク サービス ライブラリのトレースをアクティブにします。
Enable RISDC Access Trace	RIS Data Collector の RISDC アクセス ライブラリのトレースをアクティブにします。
Enable RISDB Trace	RIS Data Collector の RISDB ライブラリのトレースをアクティブにします。
Enable PI Trace	RIS Data Collector の PI ライブラリのトレースをアクティブにします。

■ トレース出力設定の説明およびデフォルト

表 7-5 Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド (続き)

フィールド名	説明
Enable XML Trace	RIS Data Collector サービスの入力 / 出力 XML メッセージのトレースをアクティブにします。
Enable Perfmon Logger Trace	RIS Data Collector のトラブルシューティング perfmon データ ロギング用のトレースをアクティブにします。ログ ファイルの名前、ログ記録されるカウンタの合計数、アプリケーションおよびシステムのカウンタおよびインスタンスの名前、プロセスおよびスレッド CPU 使用率の計算、ログ ファイルのロールオーバーおよび削除の発生をトレースするとき使用されます。

追加情報

P.7-9 の「関連項目」を参照してください。

トレース出力設定の説明およびデフォルト

表 7-6 は、トレース ログ ファイルの説明とデフォルトを示しています。



注意

[Trace Configuration] ウィンドウで [Maximum No. of Files] または [Maximum File Size] の設定を変更すると、サービスが実行中の場合は、現行ファイルを除くすべてのサービス ログ ファイルが削除されます。サービスがアクティブ状態でない場合は、サービスをアクティブにした直後にファイルが削除されます。ログ ファイルのレコードを保持する場合は、[Maximum No. of Files] または [Maximum File Size] の設定を変更する前に、サービス ログ ファイルを別のサーバにダウンロードして保存します。この作業を行うには、RTMT の Trace and Log Central を使用します。

表 7-6 トレース出力設定

フィールド	説明
Maximum number of files	このフィールドでは、指定されたサービスのトレース ファイルの合計数を指定します。 Cisco Unified Serviceability では、シーケンス番号がファイル名に自動的に付加されて、ファイルが識別されます (たとえば、cus299.txt)。シーケンスの最後のファイルがいっぱいになると、トレース データは最初のファイルから上書きされます。デフォルトは、サービスによって異なります。
Maximum file size (MB)	このフィールドでは、トレース ファイルの最大サイズを指定します (MB 単位)。デフォルトは、サービスによって異なります。

追加情報

P.7-9 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [トレース パラメータの設定 \(P.7-2\)](#)
- [トレース設定でのサービス グループ \(P.7-4\)](#)
- [デバッグトレース レベルの設定 \(P.7-6\)](#)
- [トレース フィールドの説明 \(P.7-7\)](#)
- [トレース出力設定の説明およびデフォルト \(P.7-8\)](#)



トラブルシューティング トレースの設定

[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象のサービスを選択できます。この章では、Cisco Unified Serviceability に存在するサービスに対して、トラブルシューティング トレースを設定およびリセットする方法について説明します。



(注) トラブルシューティング トレースを長時間イネーブルにすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響することがあります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Serviceability で、[Trace] > [Troubleshooting Trace Settings] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、トラブルシューティング トレースを設定する対象のサーバを選択して、[Go] をクリックします。



(注) サービスのリストが表示されます。サーバでアクティブになっていないサービスは、N/A と表示されます。

ステップ 3 次のいずれかのタスクを実行します。

- [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したサーバについて特定のサービスを指定するには、[Services] ペイン (たとえば [Database and Admin Services]、[Performance and Monitoring Services]、[Backup and Restore Services]) でサービスのチェックボックスをオンにします。
- [Check All Services] チェックボックスをオンにします。この操作により、[Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択した現行サーバ上のサービスのチェックボックスは、すべて自動的にオンになります。

ステップ 4 [Save] ボタンをクリックします。

■ 関連項目

ステップ 5 1 つまたは複数のサービスのトラブルシューティング トレースを設定した後、元のトレース設定に復元することができます。元のトレース設定に復元する場合は、[Reset Troubleshooting Traces] ボタンをクリックします。

リセット ボタンをクリックすると、ウィンドウは最新の状態に更新され、サービスのチェックボックスはオフになります。

追加情報

P.8-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [トレースの設定 \(P.7-1\)](#)
- [トレースについて \(P.6-1\)](#)



サービスについて

Cisco Unified Serviceability サービス管理には、機能サービスとネットワーク サービス、および servlet の操作が含まれています。これらは、Tomcat Java Webserver と関連付けられています。機能サービスは、Serviceability Reports Archive などのアプリケーション機能を使用可能にするものです。ネットワーク サービスは、システムが機能するために必須です。

サービスまたは servlet に障害が発生すると、アラームがアラーム モニタに書き込まれます。アラーム情報を表示した後は、サービスについてトレースを実行できます。[Trace Configuration] ウィンドウでは、サービスと servlet に、異なるトレース レベルが表示されることに注意してください。

この章では、サービス /servlet、サービスのアクティブ化、および Control Center について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [機能サービス \(P.9-2\)](#)
- [ネットワーク サービス \(P.9-3\)](#)
- [サービスのアクティブ化 \(P.9-7\)](#)
- [Control Center \(P.9-7\)](#)
- [サービス設定のチェックリスト \(P.9-7\)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.9-8\)](#)

機能サービス

Cisco Unified Serviceability では、機能サービスをアクティブ化、開始、および停止できます。アクティブ化すると、サービスが起動されます。[Service Activation] ウィンドウでサービスをアクティブにした後は、[Control Center - Feature Services] ウィンドウでサービスを開始する必要はありません。何らかの理由でサービスが開始されない場合は、[Control Center - Features Services] ウィンドウで開始する必要があります。

Cisco Unity Connection をインストールしても、機能サービスはシステムで自動的にアクティブ化されません。機能サービスとは、Serviceability Reports Archive などの Cisco Unity Connection 機能を使用するのに必要な関連サービスのことです。機能サービスをアクティブにした後は、Cisco Unity Connection の管理で関連設定を変更できます。

[Service Activation] ウィンドウでは、Cisco Unified Serviceability により、機能サービスは次のグループに分類されています。

- データベースおよび管理のサービス (P.9-2)
- パフォーマンスおよびモニタリングのサービス (P.9-2)

[Control Center - Feature Services] ウィンドウでは、Cisco Unified Serviceability により、サービスは [Service Activation] ウィンドウに表示されるのと同じグループに分類されています。



ヒント

サービス アクティブ化の推奨事項については、P.9-7 の「サービスのアクティブ化」および P.11-2 の「機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化」を参照してください。

データベースおよび管理のサービス

この項では、データベースおよび管理のサービスについて説明します。

Cisco AXL Web Service

Cisco AXL Web Service では、AXL を使用するクライアント ベースのアプリケーションから、データベース エントリを変更し、ストアド プロシージャを実行することができます。

パフォーマンスおよびモニタリングのサービス

この項では、パフォーマンスおよびモニタリングのサービスについて説明します。

Cisco Serviceability Reporter

Cisco Serviceability Reporter サービスは日次レポートを生成します。このレポートについては P.10-1 の「Serviceability Reports Archive について」で説明しています。

Reporter は、ログ記録された情報に基づいて、1 日に 1 度レポートを生成します。Reporter が Cisco Unified Serviceability で生成したレポートには、[Tools] メニューからアクセスできます。各要約レポートは、そのレポートの統計を示すさまざまなグラフで構成されます。サービスをアクティブにした後、レポート生成に 24 時間かかることがあります。

ネットワーク サービス

自動的にインストールされるネットワーク サービスには、Cisco Unity Connection システムが機能するのに必要なサービス (データベースおよびプラットフォーム サービスなど) が含まれます。これらのサービスは基本的な機能に必要なので、[Service Activation] ウィンドウではアクティブにできません。トラブルシューティングなどの目的で必要な場合は、[Control Center - Network Services] ウィンドウでネットワーク サービスを停止して起動 (または再起動) する必要があります。

Cisco Unity Connection をインストールすると、ネットワーク サービスは自動的に起動され、[Control Center - Network Services] ウィンドウに示されます。[Control Center - Network Services] ウィンドウでは、Cisco Unified Serviceability により、サービスは次のグループに分類されています。

- [パフォーマンスおよびモニタリングのサービス \(P.9-3\)](#)
- [バックアップおよび復元のサービス \(P.9-4\)](#)
- [システム サービス \(P.9-4\)](#)
- [プラットフォーム サービス \(P.9-5\)](#)
- [DB サービス \(P.9-6\)](#)
- [SOAP サービス \(P.9-6\)](#)

パフォーマンスおよびモニタリングのサービス

この項では、パフォーマンスおよびモニタリングのサービスについて説明します。

Cisco CallManager Serviceability RTMT

Cisco CallManager Serviceability RTMT servlet は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) をサポートします。RTMT を使用すると、トレースの収集および表示、パフォーマンス モニタリング オブジェクトの表示、アラートの操作、およびデバイス、システム パフォーマンス、CTI アプリケーションなどのモニタを行うことができます。

Cisco RTMT Reporter servlet

Cisco RTMT Reporter servlet を使用すると、RTMT のレポートを公開できます。

Cisco Log Partition Monitoring Tool

Cisco Log Partition Monitoring Tool サービスは、Log Partition Monitoring 機能をサポートします。この機能は、設定済みしきい値とポーリング間隔を使用して、サーバ上のログパーティションのディスク使用量をモニタします。

Cisco Tomcat Stats Servlet

Cisco Tomcat Stats Servlet を使用すると、RTMT またはコマンドライン インターフェイスを使用して、Tomcat perfmon カウンタをモニタできます。このサービスが多くのリソース (たとえば、CPU 時間) を使用している疑いがある場合以外は、このサービスを停止しないでください。

Cisco RIS Data Collector

Real-time Information Server (RIS) は、デバイス登録ステータス、パフォーマンス カウンタ統計、生成された重大アラームなどの、リアルタイム情報を管理します。Cisco RIS Data Collector サービスには、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT)、SOAP アプリケーションなど、RIS サーバに格納された情報を取得するための、アプリケーション用のインターフェイスが用意されています。

Cisco AMC Service

このサービス (Alert Manager and Collector サービス) は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) に使用され、サーバに存在するリアルタイム情報を RTMT が取得するのを許可します。

バックアップおよび復元のサービス

この項では、バックアップおよび復元のサービスについて説明します。

Cisco DRF Master

Cisco DRF Master Agent サービスは、DRF Master Agent をサポートします。DRF Master Agent は、Disaster Recovery System のグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) またはコマンドライン インターフェイス (CLI) で動作し、必要に応じてバックアップのスケジュール、復元の実行、依存関係の表示、ジョブのステータスの確認、およびジョブのキャンセルを行います。Cisco DRF Master Agent には、バックアップおよび復元プロセス用の保管メディアも用意されています。

Cisco DRF Local

Cisco DRF Local サービスは、DRF Master Agent の主力機能である Cisco DRF Local Agent をサポートします。コンポーネントは、障害回復フレームワークを使用するために、Cisco DRF Local Agent に登録されます。Cisco DRF Local Agent は、Cisco DRF Master Agent から受信したコマンドを実行します。Cisco DRF Local Agent は、ステータス、ログ、およびコマンド結果を Cisco DRF Master Agent に送信します。

システム サービス

この項では、システム サービスについて説明します。

Cisco CallManager Serviceability

Cisco CallManager Serviceability サービスは、問題のトラブルシューティングやサービスの管理に使用する Web アプリケーション / インターフェイスである Cisco Unified Serviceability をサポートします。自動的にインストールされるこのサービスを使用すると、ユーザは Cisco Unified Serviceability の GUI にアクセスできるようになります。このサービスを停止すると、サーバを参照するときに Cisco Unified Serviceability GUI にアクセスできなくなります。

Cisco CDP

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されませんが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

Cisco Trace Collection Servlet

Cisco Trace Collection Servlet は、Cisco Trace Collection Service とともにトレース収集をサポートし、ユーザが RTMT を使用してトレースを表示できるようにします。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバ上のトレースは収集または表示できなくなります。

RTMT で SysLog Viewer と Trace and Log Central が機能するには、Cisco Trace Collection Servlet と Cisco Trace Collection Service がそのサーバで動作している必要があります。

Cisco Trace Collection Service

Cisco Trace Collection Service は、Cisco Trace Collection Servlet とともにトレース収集をサポートし、ユーザが RTMT クライアントを使用してトレースを表示できるようにします。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバ上のトレースは収集または表示できなくなります。

RTMT で SysLog Viewer と Trace and Log Central が機能するには、Cisco Trace Collection Servlet と Cisco Trace Collection Service がそのサーバで動作している必要があります。



ヒント

必要に応じて、初期化時間を削減するために、Cisco Trace Collection Service を再起動してから Cisco Trace Collection Servlet を再起動することをお勧めします。

プラットフォーム サービス

この項では、プラットフォーム サービスについて説明します。

Cisco DB

Cisco DB サービスは、Progres データベース エンジンをサポートします。

Cisco Tomcat

Cisco Tomcat サービスは、Web サーバをサポートします。

SNMP Master Agent

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されますが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

MIB2 Agent

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されますが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

Host Resources Agent

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されますが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

Native Agent Adaptor

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されますが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

System Application Agent

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されますが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

Cisco CDP Agent

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されますが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

Cisco Syslog Agent

このサービスは Cisco Unified Serviceability に表示されますが、Cisco Unity Connection をサポートしていません。

Cisco Electronic Notification

このサービスは Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページとともに動作するので、ソフトウェア アップデートに関する電子メールの送信が可能になります。

Cisco Certificate Expiry Monitor

このサービスは、システムが生成する証明書の有効期限切れステータスを定期的を確認し、証明書の有効期限に近づくと、通知を送信します。このサービスに使用する証明書は、Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページで管理します。

DB サービス

この項では、DB サービスについて説明します。

Cisco Database Layer Monitor

Cisco Database Layer Monitor サービスは、データベース レイヤの局面をモニタします。このサービスが、変更通知およびモニタリングを担当します。

SOAP サービス

この項では、SOAP サービスについて説明します。

Cisco SOAP-Real-Time Service APIs

Cisco SOAP-Real-Time Service APIs を使用すると、デバイスおよび CTI アプリケーションの情報をリアルタイムで収集できます。このサービスには、サービスをアクティブ化、起動、および停止する API も用意されています。

Cisco SOAP-Performance Monitoring APIs

Cisco SOAP-Performance Monitoring APIs サービスを使用すると、SOAP API を介してさまざまなアプリケーションのパフォーマンス モニタ カウンタを使用できます。たとえば、サービスごとのメモリ情報、CPU 使用量、パフォーマンス モニタ カウンタなどをモニタできます。

Cisco SOAP-Log Collection APIs

Cisco SOAP-Log Collection APIs サービスを使用すると、リモート SFTP サーバ上でログ ファイルを収集したり、ログ ファイル収集のスケジューリングを行うことができます。収集できるログ ファイルの例としては、syslog、コア ダンプ ファイル、Cisco アプリケーション トレース ファイルなどがあります。

サービスのアクティブ化

Cisco Unified Serviceability の [Service Activation] ウィンドウでは、複数の機能サービスをアクティブ化または非アクティブ化したり、デフォルトのサービスを選択してアクティブ化したりできます。Cisco Unified Serviceability は、自動モードで機能サービスをアクティブ化し、サービスの依存関係を確認します。ある機能サービスのアクティブ化を選択すると、実行をそのサービスに依存している他のすべてのサービス（存在する場合）の選択が Cisco Unified Serviceability によって要求されます。[Set Default] ボタンをクリックすると、Cisco Unified Serviceability は、サーバ上で実行するために必要なサービスを選択します。サービスをアクティブ化すると、そのサービスが自動的に起動されます。Control Center からサービスを起動 / 停止します。

Control Center

Cisco Unified Serviceability の Control Center から、1 度に 1 つのサービスのステータスの表示、および起動 / 停止を行うことができます。このタスクを実行するために、Cisco Unified Serviceability には、2 つの [Control Center] ウィンドウが用意されています。ネットワーク サービスを起動、停止、および再起動するには、[Control Center - Network Services] ウィンドウにアクセスします。機能サービスを起動、停止、および再起動するには、[Control Center - Feature Services] ウィンドウにアクセスします。



ヒント

[Control Center] ウィンドウと [Service Activation] ウィンドウ間を移動するには、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックスと [Go] ボタンを使用します。

サービス設定のチェックリスト

表 9-1 は、サービスを使用する手順を示しています。

表 9-1 サービス設定のチェックリスト

設定手順	手順と関連項目
ステップ 1	実行する機能サービスをアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> 機能サービス (P.9-2) 機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化 (P.11-2)
ステップ 2	適切なサービス パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> Cisco Unity Connection の管理でサービス パラメータを設定します。 Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド
ステップ 3	必要に応じて、Cisco Unified Serviceability トレース ツールを使用して問題をトラブルシューティングします。 <ul style="list-style-type: none"> トレースの設定 (P.7-1) Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection

関連情報の参照先

関連項目

- [Control Center \(P.9-7\)](#)
- [機能サービス \(P.9-2\)](#)
- [ネットワーク サービス \(P.9-3\)](#)

その他のシスコ マニュアル

- *Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド*



Serviceability Reports Archive について

Cisco Serviceability Reporter サービスは、Cisco Unified Serviceability で日次レポートを生成します。各レポートには、そのレポートの統計を示すさまざまなグラフで構成される、要約が含まれています。Reporter は、ログ記録された情報に基づいて、1日に1度レポートを生成します。

Serviceability Reporter が生成する各レポートの詳細説明については、次の項を参照してください。

- [Server Statistics Report \(P.10-2 \)](#)
- [Alert Summary Report \(P.10-3 \)](#)
- [Serviceability Reports Archive 設定のチェックリスト \(P.10-4 \)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.10-4 \)](#)

レポートは、Cisco Unified Serviceability > [Tools] > [Serviceability Reports Archive] から表示します。レポートを表示するには、事前に Cisco Serviceability Reporter サービスをアクティブにしておく必要があります。サービスをアクティブにした後、レポート生成に24時間かかることがあります。

レポートには、前日の24時間のデータが含まれています。レポート名に付加されたサフィックスには、Reporter がレポートを生成した日付が表示されます（たとえば、AlertRep_mm_dd_yyyy.pdf）。[Serviceability Reports Archive] ウィンドウでは、この日付を使用して、関連する日付のレポートのみを表示します。レポートは、ログファイルに存在する、前日のタイムスタンプを持つデータから生成されます。現在の日付とその2日前までのログファイルがデータ収集の対象となります。レポートに表示される時刻は、サーバの「システム時間」を反映しています。



(注) レポートの生成中に、サーバからログファイルを取り出すことができます。

Serviceability Reporter のサービス パラメータ

Cisco Serviceability Reporter は、次のサービス パラメータを使用します。

- RTMT Reporter Designated Node : RTMT Reporter が実行される特定のノードを指定します。デフォルトは、Cisco Serviceability Reporter サービスが最初にアクティブ化されるサーバの IP アドレスです。
- Report Generation Time : 午前 0 時以降の分数。レポートは、最新の日付のこの時刻に生成されます。最小値は 0 で、最大値は 1439 です。
- Report Deletion Age : レポートをディスクに保持する必要がある日数。指定した期間より古いレポートは、システムによって削除されます。最小値は 0 で、最大値は 30 です。



ヒント レポートをディセーブルにするには、Report Deletion Age サービス パラメータの値を 0 に設定します。

サービス パラメータ設定の詳細については、『Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

Server Statistics Report

Server Statistics Report には、次の折れ線グラフが用意されています。

- [Percentage of CPU per Server \(P.10-2 \)](#)
- [Percentage of Memory Usage per Server \(P.10-2 \)](#)
- [Percentage of Hard Disk Usage of the Largest Partition per Server \(P.10-2 \)](#)

Percentage of CPU per Server

折れ線グラフに、サーバの CPU 使用率が表示されます。グラフの各データ値は、15 分間の平均 CPU 使用量を示しています。データが存在しない場合、Reporter はグラフを生成しません。メッセージ「No data for Server Statistics report available」が表示されます。

Percentage of Memory Usage per Server

折れ線グラフに、サーバのメモリ使用率が表示されます（%MemoryInUse）。グラフの各データ値は、15 分間の平均メモリ使用量を示しています。データが存在しない場合、Reporter はグラフを生成しません。

Percentage of Hard Disk Usage of the Largest Partition per Server

折れ線グラフに、サーバ上の最大パーティションのディスク スペース使用率が表示されます（%DiskSpaceInUse）。グラフの各データ値は、15 分間の平均ディスク使用量を示しています。データが存在しない場合、Reporter はグラフを生成しません。

サーバには、ファイル名パターン ServerLog_mm_dd_yyyy_hh_mm.csv に一致するログ ファイルが含まれます。ログ ファイルには、次の情報が存在します。

- サーバ上の CPU 使用率（%）
- サーバ上のメモリ使用率（%）（%MemoryInUse）
- サーバ上の最大パーティションのハード ディスク使用率（%）（%DiskSpaceInUse）

Alert Summary Report

Alert Summary Report は、その日について生成されたアラートの詳細を示します。Alert Summary Report は、次のグラフで構成されます。

- [Number of Alerts per Server \(P.10-3 \)](#)
- [Number of Alerts per Severity for the Cluster \(P.10-3 \)](#)
- [Top 10 Alerts in the Cluster \(P.10-3 \)](#)

Number of Alerts per Server

円グラフに、サーバに関するアラート数が表示されます。このグラフは、生成されたアラートのサーバ全体の詳細を示します。サーバのデータが存在しない場合、Reporter はグラフを生成しません。メッセージ「No alerts were generated for the day」が表示されます。

Number of Alerts per Severity for the Cluster

円グラフに、アラート重大度ごとのアラート数が表示されます。このグラフは、生成されたアラートの重大度の詳細を示します。円グラフの各領域は、特定の重大度タイプについて生成されたアラート数を表します。グラフには、その日に Reporter が生成したアラートの重大度タイプと同じ数の領域が表示されます。特定の重大度についてデータが存在しない場合、その重大度を表す領域はグラフにありません。データが存在しない場合、Reporter はグラフを生成しません。

Top 10 Alerts in the Cluster

棒グラフに、特定のアラート タイプのアラート数が表示されます。このグラフは、アラート タイプに基づいて生成されたアラートの詳細を示します。それぞれの棒は、1 つのアラート タイプのアラート数を表します。このグラフは、アラート数の多い順に、上位 10 個のアラート タイプのみの詳細を示します。特定のアラート タイプのデータが存在しない場合、そのアラートの棒は表示されません。あるアラート タイプのデータが存在しない場合、RTMT はグラフを生成しません。

サーバには、ファイル名パターン AlertLog_mm_dd_yyyy_hh_mm.csv に一致するログ ファイルが含まれます。ログ ファイルには、次の情報が存在します。

- Time : アラートが発生した時刻
- Alert Name : わかりやすい名前
- Node Name : アラートが発生したサーバ
- Monitored object : モニタ対象のオブジェクト
- Severity : このアラートの重大度

Serviceability Reports Archive 設定のチェックリスト

表 10-1 は、Serviceability Reports Archive 機能を設定するための設定チェックリストを示しています。

表 10-1 Serviceability Reports Archive 設定のチェックリスト

設定手順	関連手順と項目
ステップ 1 Cisco Serviceability Reporter サービスをアクティブにします。	機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化 (P.11-2)
ステップ 2 Cisco Serviceability Reporter のサービスパラメータを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • <i>Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド</i> • Serviceability Reporter のサービス パラメータ (P.10-2)
ステップ 3 Cisco Serviceability Reporter サービスによって生成されたレポートを表示します。	Serviceability Reports Archive の設定 (P.12-1)

関連情報の参照先

関連項目

- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*
- [Serviceability Reports Archive の設定 \(P.12-1 \)](#)



サービスの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.11-2\)](#)
- [Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびステータスの更新 \(P.11-3\)](#)
- [コマンドライン インターフェイスを使用した、サービスの起動および停止 \(P.11-4\)](#)

機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化

機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化は、Cisco Unified Serviceability の [Service Activation] ウィンドウで実行します。[Service Activation] ウィンドウに表示されるサービスは、アクティブ化されるまで起動されません。

Cisco Unified Serviceability では、機能サービスのみ（ネットワーク サービスではない）をアクティブ化および非アクティブ化できます。必要な数のサービスを同時にアクティブ化または非アクティブ化できます。一部の機能サービスは他のサービスに依存しています。従属するサービスは、機能サービスがアクティブ化される前にアクティブになります。

Cisco Unified Serviceability で機能サービスをアクティブ化または非アクティブ化するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Tools] > [Service Activation] を選択します。

[Service Activation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、サービスをアクティブにする対象のサーバを選択して、[Go] をクリックします。

選択したサーバについて、サービス名とサービスのアクティブ化ステータスがウィンドウに表示されます。

ステップ 3 [Service Activation] ウィンドウですべてのサービスをアクティブにするには、[Check All Services] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 単一サーバ上で実行する必要があるすべてのサービスを選択するには、[Set Default] ボタンをクリックします。この操作により、必要なすべてのサービスが選択されるだけでなく、サービスの依存関係が確認されます。単一サーバ設定のサービスをアクティブにするには、[Set Default] ボタンをクリックするか、使用するサービスをアクティブにします。

ステップ 5 アクティブ化するサービスのチェックボックスをオンにした後、[Save] をクリックします。



ヒント アクティブ化したサービスを非アクティブにするには、非アクティブ化するサービスの横のチェックボックスをオフにして、[Save] をクリックします。

サービスの最新のステータスを取得するには、[Refresh] ボタンをクリックします。

追加情報

P.11-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびステータスの更新

Cisco Unified Serviceability の Control Center では、1 つのサーバ上の機能サービスおよびネットワークサービスについて、ステータスの表示、ステータスの更新、および起動、停止、再起動を行うことができます。

サーバのサービスを起動、停止、再起動する、またはステータスを表示するには、次の手順を実行します。起動、停止、または更新できるのは、1 度に 1 つのサービスのみです。

手順

ステップ 1 起動、停止、再起動、更新するサービスタイプに応じて、次のいずれかのタスクを実行します。

- [Tools] > [Control Center - Feature Services] を選択します。



ヒント 機能サービスは、起動、停止、再起動する前にアクティブ化されている必要があります。サービスをアクティブにするには、P.11-2 の「機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化」を参照してください。

- [Tools] > [Control Center - Network Services] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスからサーバを選択して、[Go] をクリックします。

ウィンドウに次の項目が表示されます。

- 選択したサーバのサービス名。
- サービス グループ。
- サービス ステータス。たとえば、Started、Running、Not Running など (Status 列)。
- サービスが実行を開始した正確な時刻 (Start Time 列)。
- サービスが実行している時間 (Up Time 列)。

ステップ 3 次のいずれかのタスクを実行します。

- 起動するサービスの横のオプション ボタンをクリックして、[Start] ボタンをクリックします。
[Status] は、更新されたステータスを反映するように変化します。
- 停止するサービスの横のオプション ボタンをクリックして、[Stop] ボタンをクリックします。
[Status] は、更新されたステータスを反映するように変化します。
- 再起動するサービスの横のオプション ボタンをクリックして、[Restart] ボタンをクリックします。
再起動に時間がかかることを示すメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
- サービスの最新のステータスを取得するには、[Refresh] ボタンをクリックします。
- [Service Activation] ウィンドウまたは他の [Control Center] ウィンドウに移動するには、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックスからオプションを選択して、[Go] をクリックします。

追加情報

P.11-4 の「関連項目」を参照してください。

コマンドライン インターフェイスを使用した、サービスの起動および停止

いくつかのサービスは、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して起動および停止できます。CLI で起動および停止できるサービスのリストと、このタスクの実行方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。



ヒント

ほとんどのサービスは、Cisco Unified Serviceability の Control Center から起動および停止する必要があります。

追加情報

P.11-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [サービスについて \(P.9-1\)](#)
- [機能サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.11-2\)](#)
- [Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびステータスの更新 \(P.11-3\)](#)
- [コマンドライン インターフェイスを使用した、サービスの起動および停止 \(P.11-4\)](#)



Serviceability Reports Archive の設定

Cisco Serviceability Reporter サービスは、Cisco Unified Serviceability で日次レポートを生成します。各レポートには、そのレポートの統計を示すさまざまなグラフで構成された要約が含まれています。Reporter は、ログ記録された情報に基づいて、1日に1度レポートを生成します。

この項では、[Serviceability Reports Archive] ウィンドウの使用方法について説明します。

始める前に

Cisco Serviceability Reporter サービスをアクティブにします。このサービスは CPU を集中的に使用します。サービスをアクティブにした後、レポート生成に 24 時間かかることがあります。

手順

ステップ 1 [Tools] > [Serviceability Reports Archive] を選択します。

[Serviceability Reports Archive] ウィンドウに、レポートを表示可能な月と年が表示されます。

ステップ 2 [Month-Year] ペインから、レポートを表示する対象の月と年を選択します。

その月に対応する日のリストが表示されます。

ステップ 3 レポートを表示するには、レポートが生成された日に対応するリンクをクリックします。

選択した日のレポート ファイルが表示されます。

ステップ 4 特定の PDF レポートを表示するには、表示するレポートのリンクをクリックします。



ヒント サーバ名を使用して Cisco Unified Serviceability をブラウズする場合は、レポートを表示する前に、Cisco Unified Serviceability にログインする必要があります。



ヒント PDF レポートを表示するには、使用するマシンに Acrobat ® Reader をインストールする必要があります。Acrobat Reader をダウンロードするには、[Serviceability Reports Archive] ウィンドウの下部のリンクをクリックします。

■ 関連項目

ウィンドウが開き、選択したレポートの PDF ファイルが表示されます。

追加情報

P.12-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*
- [Serviceability Reports Archive について \(P.10-1 \)](#)



INDEX

- A**
- Alert Summary Report 10-3
- C**
- Cisco AMC Service 9-4
 - Cisco AXL Web Service 9-2
 - Cisco CallManager Serviceability サービス 9-4
 - Cisco CDP サービス 9-4
 - Cisco Certificate Expiry Monitor サービス 9-6
 - Cisco Database Layer Monitor サービス 9-6
 - Cisco DB サービス 9-5
 - Cisco DRF Local 9-4
 - Cisco DRF Master 9-4
 - Cisco Electronic Notification サービス 9-6
 - Cisco Log Partition Monitoring Tool サービス 9-3
 - Cisco RIS Data Collector サービス 9-3
 - Cisco RTMT Reporter servlet 9-3
 - Cisco Serviceability Reporter サービス 9-2
 - Cisco SOAP-Performance Monitoring APIs サービス 9-6
 - Cisco SOAP-Real-Time Service APIs サービス 9-6
 - Cisco SOAP-Log Collection APIs 9-6
 - Cisco Tomcat Stats Servlet 9-3
 - Cisco Tomcat サービス 9-5
 - Cisco Trace Collection Service 9-5
 - Cisco Trace Collection Servlet 9-4
- CLI**
- サービスの起動 11-4
 - サービスの停止 11-4
- Control Center**
- 概要 9-7
 - 機能サービス 9-7
 - サービスステータスの表示 9-7
 - サービスの起動 9-7, 11-3
 - サービスの停止 9-7, 11-3
 - ステータスの表示 11-3
 - ネットワーク サービス 9-7
- H**
- Host Resources Agent サービス 9-5
 - HTTPS
 - 概要 (IE および Netscape) 2-3
 - 信頼されるフォルダへの証明書の保存 (IE) 2-4
 - 信頼されるフォルダへの証明書の保存 (Netscape) 2-5
- M**
- MIB2 Agent サービス 9-5
- N**
- Network Agent Adaptor サービス 9-5
 - NT イベント ビューア 4-4
- R**
- Real-Time Monitoring Tool
 - Alert Summary Report 10-3
 - Server Statistics Report 10-2
 - Serviceability Reports Archive、サービス パラメータ 10-2
 - サービス
 - Cisco AMC Service 9-4
 - Cisco CallManager Serviceability RTMT 9-3
 - Cisco Log Partition Monitoring Tool 9-3
 - Cisco RIS Data Collector 9-3
 - Cisco RTMT Reporter servlet 9-3
 - Cisco Tomcat Stats Servlet 9-3
- S**
- Server Statistics Report 10-2
 - Serviceability Reports Archive 10-1
 - Alert Summary Report 10-3
 - Server Statistics Report 10-2

- サービス パラメータ 10-2
 - 設定 12-1
 - 設定のチェックリスト 10-4
 - servlet、デバッグトレース レベル 7-6
 - SNMP
 - サービス
 - Host Resources Agent 9-5
 - MIB2 Agent 9-5
 - Network Agent Adaptor 9-5
 - SNMP Master Agent 9-5
 - SNMP Master Agent サービス 9-5
 - SOAP
 - サービス
 - Cisco SOAP-Performance Monitoring APIs 9-6
 - Cisco SOAP-Real-Time Service APIs 9-6
 - Cisco SOAP-Log Collection APIs 9-6
- あ
- アクセシビリティ機能 2-7
 - アクセス
 - CAR 2-6
 - Web インターフェイス 2-2
 - アラーム
 - NT イベント ビューア 4-4
 - SDI トレース ライブラリ 4-4
 - Syslog 4-4
 - イベント ビューア 4-4
 - イベント レベル設定 4-4
 - 概要 3-1
 - 更新 4-2
 - サービス グループ 4-3
 - システム アラーム カタログ 5-3
 - 情報の表示 3-3
 - 設定 4-2, 4-4
 - 設定の概要 3-2
 - 設定のチェックリスト 3-3
 - 送信先 4-4
 - 定義 3-2
 - アラーム情報の表示 3-3
 - アラーム定義 3-2
 - 概要 3-2
 - 検索および表示 5-2
 - システム アラーム カタログ 5-3
 - ユーザ定義テキストの作成 5-2
 - アラームのイベント レベル 4-4
- い
- インターフェイスからのログアウト 2-6
- か
- 概要
- CAR 1-3
 - CAR へのアクセス 2-6
 - Cisco Unified Serviceability 1-1
 - Dialed Number Analyzer 1-3
 - Dialed Number Analyzer へのアクセス 2-6
 - HTTPS 2-3
 - RTMT 1-3
 - Serviceability Reports Archive 10-1
 - Web インターフェイスへのアクセス 2-2
 - アクセシビリティ機能 2-7
 - アラーム 3-1
 - アラーム定義 3-2
 - インターフェイスからのログアウト 2-6
 - オンライン ヘルプへのアクセス 2-6
 - 機能サービス 9-2
 - サービスアビリティ アーカイブ レポート 10-1
 - トラブルシューティング トレースの設定 6-3
 - トレース 6-2
 - トレース収集 6-3
 - ネットワーク サービス 9-3
 - バージョンの確認 2-6
 - ブラウザのサポート 1-3
 - 他の Web インターフェイスへのナビゲート 2-6
- き
- 機能サービス
- アクティブ化 9-2, 11-2
 - 概要 9-2
 - 起動 9-2, 11-3
 - ステータスの表示 9-2, 11-3
 - 設定のチェックリスト 9-7
 - 停止 9-2, 11-3
 - 非アクティブ化 11-2

- さ
- サービス
- Cisco AMC Service 9-4
 - Cisco AXL Web Service 9-2
 - Cisco CallManager Serviceability RTMT 9-3
 - Cisco CallManager Serviceability 9-4
 - Cisco CDP 9-4
 - Cisco Certificate Expiry Monitor 9-6
 - Cisco Database Layer Monitor 9-6
 - Cisco DB 9-5
 - Cisco DRF Local 9-4
 - Cisco DRF Master 9-4
 - Cisco Electronic Notification 9-6
 - Cisco Log Partition Monitoring Tool 9-3
 - Cisco RIS Data Collector 9-3
 - Cisco RTMT Reporter servlet 9-3
 - Cisco Serviceability Reporter 9-2
 - Cisco SOAP-Performance Monitoring APIs 9-6
 - Cisco SOAP-Real-Time Service APIs 9-6
 - Cisco SOAP-Log Collection APIs 9-6
 - Cisco Tomcat 9-5
 - Cisco Tomcat Stats Servlet 9-3
 - Cisco Trace Collection Service 9-5
 - Cisco Trace Collection Servlet 9-4
 - Control Center の概要 9-7
 - Host Resources Agent 9-5
 - MIB2 Agent 9-5
 - Native Agent Adaptor 9-5
 - SNMP Master Agent 9-5
 - アクティブ化 11-2
 - アラームの設定 4-2
 - 起動 11-3
 - 機能サービス 9-2
 - サービス ステータスの表示 9-7
 - サービスの起動 9-7
 - サービスの停止 9-7
 - ステータスの表示 11-3
 - 設定のチェックリスト 9-7
 - 停止 11-3
 - デバッグトレース レベル 7-6
 - トレース フィールドの説明 7-7
 - トレースのアクティブ化 7-2
 - ネットワーク サービス 9-3
 - 非アクティブ化 11-2
 - サービス グループ 4-3, 7-4
 - アラーム 4-3
 - トレース用 7-4
 - サービスのアクティブ化
 - アクティブ化 11-2
 - 非アクティブ化 11-2
- し
- システム アラーム カタログ 5-3
- せ
- 製品のセキュリティの概要 x
 - セキュリティ
 - IE での HTTPS 2-4
 - Netscape での HTTPS 2-5
- て
- デバイス名ベースのトレース モニタリング 7-2
 - デバッグトレース レベル 7-6
 - Database Layer Monitor フィールド 7-7
 - RIS Data Collector フィールド 7-7
- と
- トラブルシューティングトレースの設定 6-3, 8-1
 - トレース
 - Cisco Database Layer Monitor サービス、トレース
フィールド 7-7
 - Cisco RIS Data Collector サービス、トレース
フィールド 7-7
 - servlet のデバッグトレース レベル 7-6
 - 概要 6-2
 - サービス グループ 7-4
 - サービスのデバッグトレース レベル 7-6
 - 収集 6-3
 - 出力設定 7-8
 - 設定 7-2
 - 設定および収集のチェックリスト 6-4
 - 設定の概要 6-2
 - デバイス名ベースのトレース モニタリング
7-2
 - トラブルシューティングトレースの設定 6-3,
8-1
 - トレース フィールドの説明 7-7

トレース収集とログ集中管理 6-3
 トレース収集 6-3
 トレースの出力設定 7-8

ね

ネットワーク サービス

Control Center 9-3
 概要 9-3
 起動 9-3, 11-3
 ステータスの表示 9-3, 11-3
 停止 9-3, 11-3

ふ

ブラウザのサポート 1-3

ほ

他の Web インターフェイスへのナビゲート 2-6

ま

マニュアル、製品のセキュリティの概要 x

ゆ

ユーザ定義のアラーム記述 5-2

れ

レポート

Alert Summary 10-3
 サーバ統計 10-2
 レポート ツール、概要 1-3